

# 北欧最古の成文法

— 「フォッシャのルーン文字環」(Forsa runeringen) —

石 渡 利 康

Toshiyasu ISHIWATARI. The earliest written law in Scandinavia: Forsa runeringen. *Studies in International Relations* Vol.36, No.1. October 2015. pp.37 – 41.

There is no doubt that the Viking society was a type of legal society. The Forsa runering of Sweden shows it. The ring is 43 cm in diameter and is made of iron with almost 250 runes on it. This legal inscription is to be said the earliest written law, law-rule, in Scandinavia. The inscription is of considerable importance from the view of Nordic legal history. This paper clarifies the contents and the matters concerned of Forsa runeringen which is seen to date to the 9th century.

## 1 問題の所在

私は、現在、『北欧法の発展と理念』という著書を執筆中である。その記述との絡みで、北欧古法に足を踏み入れることになった。「人あるところに、法あり」(Der det fins mennesker, fins det lover) というノルウェーの諺がある。ここでのloverは恋人ではなく、lov(法)の複数形である。

Forsa runeringen(フォッシャのルーン文字環)は、何も最近発見されたものではない。その意味では、事新しさに欠ける。しかし、記述がルーン文字によっているものだけに、解釈に困難がともなってきた。未だに、古法として研究対象としての価値を失ってはいないし、日本では殆ど知られていない。本小論は、新たに得た知見も加えて、フォッシャのルーン文字環の法的内容を提示しようとするものである。

## 2 北欧最古の記述法律

北欧と聞いて、想像するものの1つにヴィーキング(viking)がある。海賊のヴィーキングなどといわれるが、彼らは本来海賊ではない。ヴィーキング遠征で海賊行為をしたり、交易をしたり、あるいは村落を攻撃したりもした。しかし、彼らの生業は、本来、漁業や農業であった<sup>(1)</sup>。造船技

術にも長けていたので、以前から海上交易もしていた。ヴィーキングという言葉自体、ヴィーク(vik)入江に住む人とか、ヴィーキャ(vikja)、すなわち「行つては、また帰ってくる」人に由来するという2つの説が有力だが、それ以外の説もないわけではない<sup>(2)</sup>。

通常、ヴィーキング時代とされるのは、西暦793年から1066年である。793年は彼らが英国のリンディスファーン(Lindisfarne)の修道院を襲撃した年であり、1066年はスタムフォードブリッジ(Stamfordbridge)で敗戦を喫した時である。この約270年の間に、ヴィーキングは、東は黒海、南は地中海、西はアイルランド、北は、アイスランド、グリーンランドにまで足跡ならぬ「船跡」を残した。そして、さらには北米大陸にまで遠征し、世界史の中に壮大な数頁を記録したのである。

さて、ヴィーキング時代の始まりが793年であるとはいっても、北欧の地に先史時代から人が居なかったわけではない。ヴィーキングは、突然出現したのではないのである。現在の北欧諸国の地に、人が居住し始めたのは西暦紀元前数千年前からであるといわれている。彼らは、インド・ヨーロッパ語属の言語を話し、推定の域を出ないがヨーロッパの中部に源流をもつとされる。もっとも、中央アジア説もある<sup>(3)</sup>。

当時の事象について明確なことがいえないのは、

その時代に記述されたものがなかったからである。といっても、当時のことを知る手がかりがない訳ではない。手がかりの1つは遺蹟であり、もう1つは、後にアイスランドで書かれたサガ (saga) やエッダ (edda) である<sup>(4)</sup>。北歐外の人による記述もある。サクソ (Saxo) による『ゲスタ・ダノルム』(Gesta danorm) 等がそうである。それに、異論はあるにしても、もしユーヘメリズム (Euhemerism) を信じるならば、神話の一部も史実を語っていることになる<sup>(5)</sup>。

「人のいる所に法あり」(Der det fins mennesker, fins det lover) という場合の法とは、制定法や成文法ばかりでなく、慣習法、さらには社会の底辺にある規範性、つまり「レックス・インシタ」(lex insita) をも含むものである。場合によっては、モラル・コード (moral code) を含めてもいいのではないかと思う。

北歐で最も古い記述された法は、「フォッシャのルーン文字環」(Forsa runeringen) である。ルーン文字 (runor) で書かれているのでこう呼ばれているが、単純に「フォッシャの輪」(Forsaringen) ともいわれる<sup>(6)</sup>。

### 3 「フォッシャのルーン文字環」の由来

ルーン文字は、現在のアルファベットが使用されるまで北歐で使用された文字で、いくつかのヴァリエーションがある。ルーン文字は、起源をたどれば、北イタリア地方で使われていた文字をモデルにゲルマン人の口語に合うように作られた記号だといわれている。24の文字記号の初めの6つをとって、fupark (フサルク) と呼ぶこともあるが、ゲルマンのルーン、北歐のルーン、アングロ・サクソンのルーン、中世のルーンなど多様である。ルーン研究は、ルーノロジー (runologi) である。

フォッシャルーン文字環の書体はウステルヨートランド (Östergötland) にある有名なルーク (Rök) ルーン石碑のそれと同じである。この石碑は、800年頃のものであるとされている<sup>(7)</sup>。800年頃といえば、北歐が固有の古代宗教をもっていた時代である。ちなみに、北歐がキリスト教に改宗するのは、1000年頃からである。

フォッシャは、スウェーデン中部のヘルシングランド (Hälsingland) 地方にある地名である。フォッシャのルーン文字環は直径約43センチ・メートルの鉄製の環で、そこに250のルーン文字が刻まれている。この文字環の存在については、すでに1590年にフォッシャの古い教会と武器庫の間のドアに掛っているものとして知られていた。1840年にこの教会が壊され、新しい教会が建てられたとき、文字環は新教会の中に収められたという。

フォッシャのルーン文字環は、初めからフォッシャにあったのだろうか。これについてウッラ・サンドストリョーム (Ulla Sandström) は、元々は近隣のヒョーグ (Hög) 地区にあったという説を提示している。その根拠として、彼女は、文字環に刻まれているように、文章を書いたアヌンド (Anund) とオーフェグ (Ofeg) はそれぞれトースタ (Tåsta) とイヨットスタ (Hjörtsta) の住人であり、この2つの町はヒョーグ地区内にあるからフォッシャのルーン文字環はヒョークで作られ、当初はその地にあったと推定できるとしている<sup>(8)</sup>。この推定を、ヤン・ルンデル (Jan Lundell) は、次のような論法で補強している。すなわち、ヒョーグは全民集会「ティング (ting)」の所在地であったから、環はそこで作られたに違いないが、後にヒョーグのティングはフォッシャのティングに統合されたので、環もフォッシャに移されたのである<sup>(9)</sup>。

### 4 記述内容

フォッシャのルーン文字環には、何が書かれているのか。ルーン文字は、現在のアルファベットとは違うので、現在ではルーン文字を特別に学んだ人でなければ読むことができない。その文言は、ソフス・ブグゲ (Sophus Bugge) によるアルファベット文字化では次の通りである<sup>(10)</sup>。

:uksatuiskianaukauratuasutafatfurstaalaki:uksatu  
aaukaurafurataprulaki:inatpripialakiuksafuraukaur  
atastaf:aukaltaikuiuarRifanhafskakiritfuriR:  
suapliupiRakuatliupritisuauasintfuraukhalkat:inpa  
Rkirpusikpitanunratarstapum:aukfakRahiurtstapu

m:inuibiurnfapi:

これでも、ルーン文字を理解しない人には単なる記号で意味が通じない。ルーン文字での記述は、単語の語尾ではなく意味の語尾で区切られているので、様々な解釈がなされ得る。したがって、本来ルーン文字は、長文を書くのには適していないのである<sup>(11)</sup>。ルーン文字の多くが石に碑文として存在してるのは、そのためである。

さらに多少とも分かりやすくトランスリテレイトすると次のようになる<sup>(12)</sup>。

Oxa at vis gilfdjan ok aura tva staf at fyrsta lagi,  
oxa tva ok aura fiura att a ru lagi,  
en at priaia lagi oxa fiura ok aura atta staf,  
ok allt aigu i varr, ef hann hafsk akki rett fyrir,  
sva liu ir aigu at liuzretti, sva vas innt fyrr ok halgat,  
En pairR gar u sik,  
petta Anndra a Tarsta um ok OfagR a Hiortsta um,  
En Vibjorn fa i.

これを現代スウェーデン語に変換すると、こうなる<sup>(13)</sup>。

En tvegill oxer och tva ore till stav for första gången:  
Två oxar fyra ore för andra gången:  
men for tredje gången fyra oxar och åtta ore till stav:  
och all egendom i kvarstad om han icke gör rätt för sig:  
det som de lärde tillkommer enligt landets lag,  
det blev forr stadgat och stadfast:  
men de gjorde sig detta; Anund i Tåsta:  
och Ofeg i Hjortsta:  
men Vbjörn ristade.

若干文言が違う別の変換を挙げておこう<sup>(14)</sup>。

En oxer och tva ore (i boter) till stav för att återställa vi i gillt skiick första gången; två oxar fyra ore för andra gången; men för tredje gången fyra oxar

och åtta ore: och all egendom i kvarstad om han icke gör rätt för sig. Det som folkhet äger att kräva enligt landets lag, det blev för stadgat och stadfast. Men de Gjorde sig detta, Anund I Tåsta och Oleg i Hjorta, Vbjörn ristade.

内容の概要は、次のようである。

「神殿の場を破損し補修支払いを怠る者は、1回目は1頭の牛と2アウラ、2回目は2頭の牛と4アウラ、3回目は4頭の牛と8アウラの罰金を支払わなければならない。これらの罰金を支払わない者は、その財産を差し押えられるというのが法の定めである。この文章を書いたのは、トースタのアーヌンドとヨールトスタのオーグフ、文字を刻んだのはヴィビヨンである」<sup>(15)</sup>。

ここでいう神殿（vi）とは、北欧古代宗教の神殿のことである。すなわち、キリスト教前の北欧古代宗教の聖域（forkristen kultplats）を意味している。フォッシャのルーン文字環は、例えばハンムラビ法典をはじめとして昔の法規定の多くがそうであるように、いわば罰則の定めた広義での刑法規定である。刑罰は、2倍増刑罰（doblingsstraff）方式を採っている。

## 5 残された問題—作成年代に関する論争—

フォッシャのルーン文字環がいつ作成されたかに関しては、1877年にブグゲが提唱した北欧がキリスト教化されてからの中世のものであるという説が永らく信じられてきた<sup>(16)</sup>。ちなみに、大雑把にいつて、北欧では中世前期は500年から1000年、中世中期は1000年から1300年、中世後期は1300年から1500年である。北欧が一般的にキリスト教化されたのは1000年以降であるから、この環は中世中期のものということになる<sup>(17)</sup>。

ブグゲの説は、1970年代になって、ノルウェーのルーン文字学者（runolog）であるアスラク・リーストゥール（Aslak Liestøl）の研究によって否定され、フォッシャのルーン文字環は800年代の作であるという説がほぼ有力なようである。ルークのルーン石碑と同一もしくは類似の書体である

ことも、その証左の1つである<sup>(18)</sup>。しかし、作成年代に関する議論は、新しい資料、ルーン文字学、今までとは異なった視点、クロスカルチャーな方法論などを加味して、今後も続くものと思われる。

## 註

- (1) ヴィーキングに関しては, Rosendahl, Else: *Vikingarnas Verden*. Gyldendal, 2001.; Sindbaek, Søren Michael: *Verden i Vikingetiden*. Vikingskibsmuseum Roskilde, 2014.; Enocksen, Lars Magnar: *Vikingarnas egne ord*. Historiska Media, 2003.; Harrison, Dick och Svensson, Kristina: *Vikingsliv. Natur och Kultur*, 2007. を全般的に参照。
- (2) Vikingの語源について、1つの定説があるわけではない。ルーン文字で書かれたものの中にはトランスリテイトするとvikingrとvikingがあるが、前者は「海の戦士」、後者は「海上軍事遠征」の意味で使われている。ちなみに、vikingrは文法性では男性名詞、vikingは女性名詞である。
- (3) Sørensen, Søren: *Nordens historie, en folkebog*. C. A. Reitzels Forlag, 1987, pp.13-16; Faux, David K. “The Genetic Link of the Viking – Era Norse to Central Asia: An Assessment of the Y Chromosome DNA, Archaeological, Historical and Linguistic Evidence” ([www.davidkfaux.org/Central Asia Roots of Scandinavia-Y-DNA](http://www.davidkfaux.org/Central%20Asia%20Roots%20of%20Scandinavia-Y-DNA). pp.1-42, 最終確認 2015-03-15)。
- (4) エッダ (Edda) は、ヴィーキング時代の北欧神話 (norraen goafraei) と英雄伝説を描いたアイスランド語詩文での記述の総称で、1210年頃スノッリ・ストゥルドルソン (Snorri Sturluson, 1197-1241) が書いたスノッリのエッダ (Snorra Edda) が有名である。サガ (Saga) はアイスランドを中心とした散文の歴史、伝説である (Norstedts uppslagsbok. 1982, pp.299, 1120)。
- (5) ユーヘメリズム (euhemerism) とは、西暦前4世紀後半に生きた古代ギリシャの神話収集学者エウヘメルス (Euhemerus) の説で、神話の神々は歴史上実在した英雄や勇者の反映に他ならないとするものである。なお、詳しくは、石渡利康: 「ユーヘメリズムと北欧神話の主神オーディン実在説—ハイエルダールの仮説と古代欧州における神話的域際関係—」, 『国際関係研究』, 第9巻3号, 平成20年, pp.279-304.
- (6) 「フォッシャのルーン文字環」に関しては, Wadstein, Elis: *Ruskrifter på Forsa-ringen*. Vårt äldsta lagstadgande. Nobu press, 2013.; Brink, Stefan: “Forsaringen. Nordens äldsta lagbud” i Rosendahl, Else og Meulengracht Sørensen, P. (red.) *Beretning fra femtende tvaerfaglige vikingsymposium 15*. Højbjerg: Hikuin, 1996.
- (7) ルーク・ルーン文字石碑は、スウェーデンの東ヨートランド (Östergötland) にあるもので700文字で書かれた長文の石碑として有名である (<http://arkeeuropa.eu/index.php?page=forsa-rune-ring> 最終確認 2015-04.01)
- (8) Sandström, Ulla: “En järnring förbannelse. Ett studie i religionshistoria om en Ring från gästriklands vikingatid”. Högskolan i Gävle. Institutionen för humaniora och samhällsvetenskap. 2006. p.23.
- (9) Lundell, Jan: “Foreläsningar på Halsinglands museum”, 2005-09-26.
- (10) Wadstein, Elis: *Runinskriften på Forsaringen Vårt Äldsta Lagstadgande*. Almqvist & Wiksells Boktr. Aktieb. 1898, p.4.
- (11) Ruthström, Bo: “Forsta-ristnigen – vikingatida vi-rätt?”. *Arkiv for nordisk filologi*, 105. 1990. p.42.
- (12) Wadstein, Elis: op. cit. 1898. p.4.
- (13) Hafström, Gerhard: “Forsaristningens tolkning”, *Svensk juristtidning*, 1957, pp.538-544.
- (14) SvD Kultur, 30 mars 2011.
- (15) 訳出に関しては、法言語学 (rättsfilologi) 的考察を主にした註(11)のルートストリョームの論文数点の資料を参照に、最終的にはSemb, Ellen: “<Der det fins mennesker, fins det lover – ny arkeologisk forskning på tingsteder i jernalder og middelalder. Universitetet i Oslo, 2014. p.3 (<http://www.khm.uio/forskning/aktuelt/>

aktuelle-saker/2014/der-det-fins-mennesker-…  
2014/04/06 最終確認 2015-03-23) のノル  
ウェー文を基礎とした。

- (16) Lofving, Carl: “Forsamligen är medeltida och gamle Bugge hade nog rätt”, Seminarieupplaga 2009-09-15, 2(6).
- (17) 多神教の北欧諸国においてキリスト教化が始まったのは、1000年頃からのことである。しかし、当初の布教は成功しなかった。当時の北欧固有の宗教崇拝を異教崇拝 (Paganism) と呼ぶのは、キリスト教の立場からの呼称である。したがって、私は、ここでは異教という言葉を使わない。文化相対主義に立てば、北欧古代宗教というのが正しい。北欧古代宗教からキリスト教への「改宗」についても、注意するところがある。現在では、改宗とは間違った宗教を完全に放棄して真であると思われる信仰に至ることである。しかし、デンマークの精神分析学者トーキル・ヴァンゴーア (Vangård, Torkil) も書いているように、古来の神々は突然無くなってしまいうのではなく、少しずつ忘れられていったのである。20世紀後半アイスランドで起こった北欧古代の神々の復活運動アウサトゥルー (Ásatru) を理解するには、このことを知っていなければならないのである。これについては、石渡利康：「北欧古代の神々の夜明け－アイスランドのアウサトゥルー (Ásatru) －」、『国際関係研究』, 第28巻3号, 平成19年, pp.89-111。
- (18) Liestol, Aslak: “Runeringen i Forsa. Kva er han, og når vart han smidd?”. Saga og Sed, 1979. pp.12-27.; Brink, Stefan: “Law and society, Politics and legal customs in Viking Scandinavia, in Brinh, Stefan & Price, Neil (eds.): The Viking World. Routledge, 2008, p.28; Harrison, Dick: “Sveriges äldsta lagtext.” SvD. 2011-03-30.